

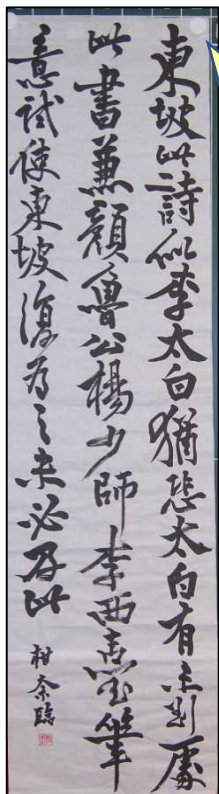


遠大勵志

第22回高校生国際美術展

書道部高橋さん・木村さん入賞！

8月4日(水)に東京都港区六本木(乃木坂の近く)の国立新美術館で開催された第22回高校生国際美術展の書道部門で、2-1 高橋 柑奈さんと2-2 木村 実琴さんの作品が佳作に入賞しました。

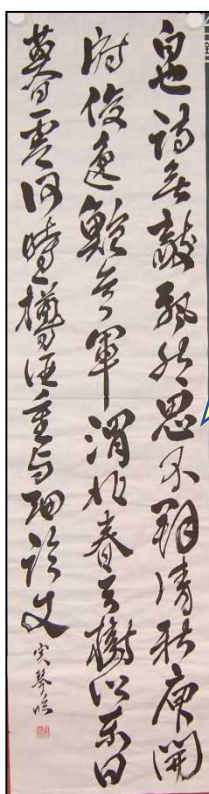


高橋 柑奈さんの作品

「黄州寒食詩巻」

小さな写真で申し訳ありませんが、お二人の流れるような筆さばきを味わっていただければ幸いです。

全国12,634点の応募の中から入選した455点の中に選ばれた高橋さん、木村さん、おめでとうございます！ご指導いただいた寺崎 良謙先生に感謝申し上げます。



木村 実琴さんの作品

「詩文雑稿巻」

「黒陵魂を奏でる」演奏会開催

校長通信No.20でご案内をした標記演奏会が、8

月12日(木)にさくらホールで開催され、音楽の絆で結ばれた本校の卒業生が、妙なる調べを奏でてくださいました。

【8月15日(日)岩手日報より抜粋】

北上・黒沢尻北高の出身者有志による演奏会「黒陵魂を奏でる」は12日夜、北上市さくら通りのさくらホールで開かれた。出演者と来場者の多くが同窓生で、音楽を通じて絆を強めた。

9組約20人が出演し、管弦楽器や歌を披露した。ジャズボーカリストとして活動する宇津志博恵さんは、ジャズアレンジした同校応援歌を披露。来場した約130人は、手拍子を送りながら青春時代に思いをはせた。



演奏された先輩たちは、やはり吹奏楽部のOB・OGの方が多かったですが、中には柔道部、剣道部、山岳部、陸上競技部だったという方たちもいらして、改めて本校の「音楽文化度」の高さに驚きました。

本公演の代表は松岡 静一さん、コンサートの題名は北條 由香さんが名付けました。また、コンサートの題字はOBの中島 敏生さんの筆になるもので、文字どおり「黒陵魂」結集の演奏会になりました。



ちなみに、宇津志さんがお歌いになったジャズver.の「応援歌」は「城歌」でした(シビれました)。

このような素晴らしい演奏会を企画して下さった実行委員会の先輩方、そして感動的な演奏をご披露くださった皆さま、本当にありがとうございました！

読売新聞8/26(木)

「いわてパラスポーツ最前線」より

ちょっと長い記事ですが、ぜひ皆さんに読んでいただきたく、ご紹介します。

【8月26日(木)読売新聞より抜粋】

「いわてパラスポーツ最前線」

部員60人以上が所属する黒沢尻北高校の陸上部の練習に昨年末、前沢明峰支援学校高等部2年で知的障害を持つ佐藤鮎世さん(16)が加わった。陸上部員らが鮎世さんの練習をサポートする姿は今や当たり前前の光景となっている。

一関市出身の鮎世さんは小さい頃から足が速く、走ることが好きだった。(中略)小学5年で知的障害と判明。現在の支援学校の小学部に転校したが、何かにはまることもなかった。

転機を迎えたのは中学部2年。運動神経の良さを買われ、高等部の陸上の課外活動に誘われた。全国障害者スポーツ大会の県選手団コーチを務め、同校高等部で陸上を教えていた佐藤佑哉さん(34)が運動会での鮎世さんの走りを見て「鍛えればもっと早くなる」とスカウトした。(中略)ただ、同校の練習環境はまだ十分とは言えなかった。(中略)そこで、別の支援学校に転勤後も練習を見てきた佑哉さんが母校の黒沢尻北高校に受け入れを相談。同校陸上部の菊地敬太監督(39)が「鮎世さんにも部員にとっても良い経験になる」と快諾した。鮎世さんは周りの速い選手に刺激され、さらに練習に熱が入った。

今年9日、鮎世さんは北上市の北上総合運動公園での競技会にいた。パラリンピアンを目指し、走り幅跳びを本格的に始めていた。

全力で駆け出し、両足で力強く踏み込むと、空中へ高く高く飛び出した。スタンドからは母明美さんや佑哉さんに加え、黒沢尻北高の部員らがその跳躍を見守っていた。

現在開催されている東京パラリンピックでは、多くの競技で障害者と健常者が切磋琢磨し、互いを高め合ってきた様子が見られました。しかし、いわゆる

「共生社会」の実現には様々な困難があり、私たちの身近にはまだ存在しないもののように感じていたのが本音です。それが、こんな身近に、すでに実現されていたとは。

改めて、本校の部活動の懐の深さを感じるとともに、佐藤 佑哉先生と菊地 敬太先生という二人の本校陸上競技部OBの「思い」が本県パラスポーツの可能性を拓いたことに、感動しました。

「共生社会」を身近に感じ、私にも何かできるかも知れないと思わせてくれた両先生、そして陸上競技部の生徒諸君に感謝したいと思います。

そして、佐藤 鮎世さんのジャンプが障害者と健常者の境を軽々と飛び越えて、私たちに新しい社会を見せてくれることに期待して、みんなで応援しましょう！

校舎裏に仮設弓道射場出来！

新型コロナ禍で県や市の施設が使用不可となり、窮地に立たされた弓道部。しかし、的を立てるためのウレタン製安土を水沢高校弓道部さんからお借りし、安全対策として畳を本校柔剣道部から提供していただき、本校裏に仮設の弓道場が設置されました。



多くの方々からの支援と新たなアイデア・工夫によってできあがった仮設射場。

安全には十分注意して、ヤブ蚊その他の虫と戦いながら、良い弓を引いていただきたいと思います。

ちなみに、この射場に名前をつけるとしたら、「宏倫館」というのはどうでしょう？

☆次号予告☆

次の「遠大励志」No.25は、完全実施となった体育祭と、大盛り上がるの文化部発表会を特集します。Coming Soon! (ホントか?)

